

# 日本アレルギー友の会創立50周年記念講演会

昭和44年(1969年)の発足から今年で50周年を迎えました。

これも長年にわたりご支援をいただいてきた皆様方のおかげと深く感謝いたしております。

創立50周年の記念講演会を開催いたします。

アレルギー疾患の著名な専門医をお招きし、現在の最新治療やアレルギー疾患治療の未来について、ご講演いただきます。

また当会50年の歴史からわかるアレルギー疾患を取り巻く環境変化について、

映像を通して振り返り、医師と患者のトークセッションも行います。

この50年間で治療がどのように変わってきたのか、友の会は患者会として病気で悩む方々のために  
どのように活動してきたのか、そしてアレルギー疾患治療の未来はどうなるのか、

当会ならではの講演会としたいと思いますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



アキバプラザ5階「アキバホール」（東京都千代田区）JR秋葉原駅より3分

## 参加申し込み・お問い合わせ先

### 認定NPO法人 日本アレルギー友の会

TEL: 03-3634-0865 毎週火・土曜日 11:00~16:00 \*10月21日~10月26日は毎日受付

FAX: 03-3634-0850 Email: j-allergy@nifty.com http://allergy.gr.jp/

この講演会の内容をお名前・メールアドレス等を登録していただいた方に動画配信いたします。お申込みは上記ホームページまで。

## 「アレルギー疾患患者の未来を築く ～患者・医療・社会の三つを結ぶ強い絆」

2019年 10月 27日 (日) 13:00~16:30 (12:30 開場)

アキバプラザ5階「アキバホール」

無料  
要申込

### プログラム

- 50周年記念式典（来賓挨拶・顕彰者表彰）
- 50周年記念講演会「アレルギー疾患患者の未来を築く～患者・医療・社会の三つを結ぶ強い絆」
  - 【映像】映像で見る友の会50年の活動およびアレルギー疾患を取り巻く環境変化の振り返り
  - 【講演①】<アレルギー疾患のゲノム医療への期待と挑戦>ゲノム情報を活用したアレルギー疾患の病態の解明  
**玉利 真由美**先生（東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 分子遺伝学研究部 教授）
  - 【講演②】アトピー性皮膚炎の治療—未来に向かって  
**加藤 則人**先生（京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学 教授）
  - 【講演③】食物アレルギーへのこれから求められる対策  
**海老澤 元宏**先生（独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター 副センター長）
  - 【講演④】気管支喘息の克服を目指して一過去から未来へ  
**大田 健**先生（公益財団法人結核予防会復十字病院 院長）
- トークセッション  
「アレルギー疾患を取り巻く環境変化を振り返って」
  - <講師紹介・トークセッション司会>
  - 日本アレルギー友の会 常任顧問
    - ・喘息部門…**坂本 芳雄**先生（ふれあい横浜ホスピタル 院長）
    - ・アトピー性皮膚炎部門…**江藤 隆史**先生（東京通信病院皮膚科客員部長 あたご皮フ科 副院長）

来場者の方に  
治療情報冊子、  
敏感肌スキンケア  
用品のサンプルを  
差し上げます！





講演①  
たまり まゆみ  
**玉利 真由美**先生

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター  
分子遺伝学研究部 教授

<アレルギー疾患のゲノム医療への期待と挑戦>

## ゲノム情報を活用した アレルギー疾患の病態の解明

アレルギーは環境要因と遺伝要因とが複雑に関与しあって発症すると考えられている。近年のヒトゲノム情報基盤の整備と解析技術の向上により、アレルギー疾患の遺伝要因の解明が進み、アレルギーの治療標的分子の同定が行われている。本講演では、アレルギーのゲノム解析の最近の知見を紹介し、ゲノム情報を臨床に生かしていく試みについても述べる。



講演②  
かとう のりと  
**加藤 則人**先生

京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学 教授



講演③  
えびさわ もとひろ  
**海老澤 元宏**先生

独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター  
副センター長



講演④  
おおた けん  
**大田 健**先生

公益財団法人結核予防会 (JATA) 複十字病院 院長  
国立病院機構 (NHO) 東京病院 名誉院長

## アトピー性皮膚炎の治療 —未来に向かって

この数十年の間に、アトピー性皮膚炎のおきる仕組みが次々に解明され、今後も新しい治療薬が多く登場するようだ。アトピー性皮膚炎は、適切な治療によって皮疹や痒みのない状態に到達し、その状態を維持することで、次第に薬を用いた治療を要さなくなることが期待できる疾患です。アトピー性皮膚炎の起きる仕組みと治療を続けるポイントについてお話しします。

## 食物アレルギーへの これから求められる対策

食物アレルギーは小児から成人までに認められるが、乳幼児期が最も多く各年齢相で原因食物や病態が異なる。全年齢を通して食物アレルギーの多くはIgE依存性の即時型である。小児期のアナフィラキシーの原因としては食物アレルギーが最も多く、日常生活に直結することなので食品表示や保育所(園)/幼稚園/学校など社会的な対応も求められる。思春期から成人期でも増加傾向にあり成人領域の診療体制の整備なども急務である。

## 気管支喘息の克服を目指して —過去から未来へ

喘息の病態に慢性の気道炎症の存在が解明される前は、出現した喘息症状を緩解させることが治療の目標であった。しかし、慢性の気道炎症が証明され、吸入ステロイド薬の有効性が証明されてからは、喘息症状や薬の副作用がなく健常人と同様の日常生活が送れることが目標となった。今後の課題は、難治性喘息に対する新しい治療戦略の開発や高齢者喘息への対応である。また、疾患多様性の科学的解析と個別化医療の実現にも期待したい。

- 1987年3月 東京慈恵会医科大学医学部卒業
- 1987年5月 東京慈恵会医科大学付属病院内科・研修医
- 1989年4月 慈恵医大第三病院 内科学第二講座・助手
- 1990年5月 国立がんセンター・研究所 分子腫瘍学部リサーチアソシエイト
- 1992年6月 癌研究会癌研究所 生化学部・嘱託研究員
- 1993年12月 慈恵医大第三病院 内科学第二講座・助手
- 1997年4月 東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター  
シーケンス解析分野・日本学術振興会研究員
- 2000年4月 東京大学医科学研究所 ゲノム情報応用診断部門・助手
- 2001年4月 理化学研究所 遺伝子多型研究センター  
遺伝子多型機能相関研究チーム・研究員
- 2005年4月 理化学研究所 遺伝子多型研究センター  
アレルギー体質関連遺伝子研究チーム・チーフリーダー
- 2013年4月 理化学研究所 統合生命科学研究センター  
呼吸器・アレルギー疾患研究チーム・チーフリーダー
- 2017年4月 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター  
分子遺伝学研究部・教授

- 1989年3月 京都府立医科大学医学部医学科卒業
- 1989年5月 京都府立医科大学附属病院皮膚科研修医
- 1991年4月 京都市立病院皮膚科医員
- 1992年4月 京都府立医科大学皮膚科学教室助手
- 1994年4月 福知山市民病院皮膚科医長
- 1995年4月 京都府立医科大学皮膚科学教室助手
- 1997年4月 ドイツ・ミュンヘン大学医学部皮膚科研究員
- 1997年7月 ドイツ・ボン大学医学部皮膚科  
免疫生物学部門研究員
- 2000年4月 京都府立医科大学皮膚科学教室講師
- 2002年11月 京都府立医科大学皮膚科学教室助教授
- 2009年8月 京都府立医科大学大学院医学研究科  
皮膚科学教授(現在に至る)

- 1985年3月 東京慈恵会医科大学 医学部卒業
- 1988年4月 国立小児医療研究センター  
アレルギー研究室 レジデント
- 1991年3月 米国ジョンズ・ホプキンス大学医学部  
内科臨床免疫学教室 ポストドクトラルフェローシップ
- 1991年10月 大学院修了 医学博士
- 1993年4月 国立小児病院 アレルギー科医員
- 1995年4月 国立相模原病院 小児科医員
- 2000年4月 同 医長
- 2001年6月 同 臨床研究センター 病態総合研究部長
- 2003年12月 同 臨床研究センター アレルギー・性疾患研究部長
- 2004年4月 独創性に伴い国立病院機構相模原病院  
臨床研究センター アレルギー・性疾患研究部長
- 2012年3月 東京慈恵会医科大学小児科学教室客員教授
- 2017年1月 国立病院機構相模原病院臨床研究センター  
副センター長

- 1975年 東京大学医学部を卒業、ECFMG合格
- 1977年 東京大学物療内科入局。米国National Jewish Health(現在名)に留学。国立国際医療研究センター  
呼吸器内科技官、東京大学物療内科・聖マリアンナ医大講師、帝京大学内科学科助教授を経て1997年帝京大学呼吸器・アレルギー内科教授となり、2012年4月に  
国立病院機構東京病院院長。
- 2018年4月 同病院名誉院長。続いて同年7月公益財団法人結核予防会(JATA)複十字病院院長に就任。院長職とともに、  
喘息、間質性肺炎、COPDを中心に呼吸器の臨床と研究を行っている。帝京大学と昭和大学の呼吸器・アレルギー・内科客員教授。
- 2006年～ 医師が選ぶ名医「Best Doctors in Japan」に選出。  
2019年7月～東京都病院協会副会長。